

Program プログラム

詩:ボードレール Charles-Pierre Baudelaire [1821-1867]

ドビュッシー:ボードレールの5つの詩

Cinq Poèmes de Baudelaire

1. バルコニー Le balcon
2. タベの調べ Harmonie du soir
3. 噴水 Le jet d'eau
4. 瞑想 Recueillement
5. 恋人たちの死 La mort des amants

(ピアノソロ)

ドビュッシー:音と香りは夕暮れの大気に漂う

Les sons et les parfums tournent dans l'air du soir

詩:ヴェルレーヌ Paul Marie Verlaine [1844-1896]

フォーレ:優しき歌

La bonne chanson

1. 後光を背負った聖女様 Une Sainte en son auréole
2. 朝焼けが広がるのだから Puisque l'aube grandit
3. 白い月 La lune blanche
4. ぼくは正しくない道を歩いていた J'allais par les chemins perfides
5. ぼくはほとんど怯えていた、実のところ J'ai presque peur, en vérité
6. お前が消えてしまう前に Avant que tu ne t'en ailles
7. さて、それはある晴れた夏の日のことだ Donc, ce sera par un clair jour d'été
8. ね、そうでしょう? N'est-ce pas?
9. 冬は終わって L'hiver a cessé

(ピアノソロ)

ラヴェル:古風なメヌエット

Menuet antique

詩:マラルメ Stéphane Mallarmé [1842-1898]

ラヴェル:ステファーン・マラルメの3つの詩

Trois poèmes de Mallarmé

1. ため息 Soupir
2. ささやかな願い Placet futile
3. 臀部より出でて、ひと跳びで Surgi de la croupe et du bond

Program Notes 解説

ドビュッシー:ボードレールの5つの詩

1. バルコニー Le balcon

黄昏の中で恋人との逢瀬を美しく表現している。

“バラの香りの漂うあのバルコニーで、なんてお前の心が優しくかったか。
二人で永遠に変わらないものを語り合ったあの夕暮れ。”

2. タベの調べ Harmonie du soir

1つの連の2つと4つの行が次の1つと3つの行に現れる4連形式の「パントゥーム」というスタイルを取り入れられた詩。

花の香りが漂う中、美しい音楽を聴いているがどこか切なさを感じさせるメロディが夕暮れ時を彷彿とさせる。

3. 噴水 Le jet d'eau

恋人と二人きりの夜、庭の噴水が月明かりを受けきらめいている。

静かながら甘美な旋律によりロマンティックな情景が思い浮かべられる。

“夜が君をさらに美しく輝かせる。月明かりが照らす雨のように降り注ぐ大粒の涙”

4. 瞑想 Recueillement

この曲は静寂な雰囲気からはじまり、繊細な音楽が詩の昂りと共に盛り上がっていく。

夕暮れと共に私の苦しみが押し寄せてくる。過ぎ去った年月がバルコニーで、水の底から後悔が微笑みかけ、穏やかな夜の行進が聞こえてくる。

5. 恋人たちの死 La mort des amants

ワーグナーに影響され、「トリスタンとイゾルデ」を連想させると言われている。

可愛らしさも感じさせるメロディで妖艶な雰囲気を醸し出している。

神秘の青と薔薇色に包まれた夕べにたった一つの閃光を光らせる。

そのあとに天使がドアを少し開け甦らせるだろう。

(ピアノソロ)

ドビュッシー:音と香りは夕暮れの大気に漂う

1910年に作曲されたドビュッシー晩年の作品。

タイトルはシャルル・ボードレールによる詩集「悪の華」の“タベの諧調”から引用されている。
原詩にある“物憂げなワルツ”のように気怠く物憂げな大気が漂う情景が目浮かぶようである。

本日、演奏者の希望により 途中休憩なし での開催となります。ご了承ください。

フォーレ: 優しき歌

1. 後光を背負った聖女様 Une Sainte en son auréole

ヴェルレーヌがマチルドと出会い書き綴った21篇の詩より9つ選びメロディをつけた歌曲集である。彼女を王女や聖女とたとえ崇める気持ちを純粋で単純な旋律で表現しており、この曲集の色々なところに散りばめられている。

2. 朝焼けが広がるのだから Puisque l'aube grandit

彼女と出会い、人生に朝焼けが訪れ希望が生まれる。穏やかに燃えるその瞳であなたに導いてほしい。そして私は歌を歌うのだ。あなたはきっと嫌がらずに聴いてくれるだろう。ピアノのアルペジオが心の昂りや情熱を感じさせ、幸せに酔いしれるように終わる。

3. 白い月 La lune blanche

月の光が優しく森を照らす。愛する人、夢みよう。やすらぎが降りてくるようだ。自然の美しさと静けさが情感豊かな音楽で表現され、繊細なピアノが神秘的に輝く夜に誘う。

4. ぼくは正しくない道を歩いていた J'allais par les chemins perfides

不安が漂う中愛が現れると1曲目に現れたメロディが力強く登っていく。あなたの優しい手がぼくを導いてくれた あなたの声は「また歩くの」というぼくの不安な心は悲しい道を一人歩いた愛は私たちを結びつけたのだ、喜びの中に。

5. ぼくはほとんど怯えていた、実のところ J'ai presque peur, en vérité

この曲にも第1曲目のテーマが彼女を想い愛しているが故の不安を纏い現れている。不安と愛のときめきが心の中に入り乱れているように駆けて行き幸福感に浸るようにゆったりと愛を叫ぶ。

6. お前が消えてしまう前に Avant que tu ne t'en ailles

暁の星が消えゆくようなゆったりと始まり、朝露が輝く情景が思い浮かぶような快活なメロディ。外を眺めながら自分の想いを語り、そして朝を迎え彼女の目覚めを今か今かと待っている。

7. さて、それはある晴れた夏の日のことだ Donc, ce sera par un clair jour d'été

ある晴れた夏の日、太陽の日差しに照らされた彼女を見つめ、二人が結ばれる日を夢見る。夕暮れが訪れると曲も落ち着きを見せ、心地の良いそよ風が吹き星たちが優しく微笑みかける。

8. ね、そうでしょう？ N'est-ce pas?

そうでしょう？ぼくたちはゆっくりこの道があるいていこう。二人の心は夕暮れに鳴く2羽のナイチンゲールとなるんだ。どんな運命が待ち受けているか考えず、子供のような心で。そうでしょう？

9. 冬は終わって L'hiver a cessé

フランス革命暦と呼ばれる十数年のみ使われていた暦のプロレアル。歓喜に満ち、雪解けの水が滴り落ちるように始まりキラキラと輝きが響き渡る。恋の成就と冬の終わりを歌う。第1曲目のフレーズが現れ、静かに幕を閉じる。

(ピアノソロ)

ラヴェル: 古風なメヌエット

この曲は1895年、まだパリ音楽院の学生だったラヴェルの最初の出版作品であるピアノ独奏曲。この曲の献呈相手のラヴェルの友人であるリカルド・ピニェスによって初演された。タイトルの通り古代のメヌエット舞曲のスタイルや雰囲気を取り入れ、華やかながら独特なハーモニーを奏でている。

ラヴェル: ステファージュ・マラルメの3つの詩

1. ため息 Soupir

ストラヴィンスキー作曲「3つの日本の抒情詩」に触発されたと言われており日本独自の笙など雅楽を思わせる。晩秋の空は青白く澄み、枯れ葉が湖面を埋め尽くし風にたなびき太陽の光が湖面に伸びてゆく。音楽も静かで寂しさが迫り来るようである。

2. ささやかな願い Placet futile

へべはギリシャ神話の若さ、青春の女神。女神が描かれているコップを恋人が使用しジェラシーを感じている。そんな心の揺れを音楽で表現されている。私はあなたのペットでもおもちゃでもないですが、羊を寝かしつける私を愛の神が描いてくれるように、あなたの微笑みの羊飼いという名前をつけてください。

3. 臀部より出でて、ひと飛びで Surgi de la croupe et du bond

息子を失い妻と心を通わすことができなくなった自身をガラスの瓶に例えているのだろう。ガラスの瓶から飛び出て辛い夜に花を咲かせることもない。悲痛の中での接吻も。何も吐き出すことはできない、暗闇の中一輪の薔薇を。